

だっこするよ

令和2年8月

社会福祉法人茂原高師保育園

北区立赤羽台保育

〒115-0053 北区赤羽台1-4-11-104

TEL 3900-0189 FAX 3907-8690

園長 奥戸 昌子



ウイズコロナのお願い と 戦後75年 「平和」について話そう

蒸し蒸しと暑い日が続きます。夏ならではの雨の日散歩や水遊びを楽しんでいます。泥水、色水、泡遊び・・・暑い夏を心地よく、自由に楽しく過ごすことは免疫力も上がるはずです。乳児組も直ぐにタライの周りに集まり、バチャバチャと両手を入れてたたいています。そして、集中して流れる水を掴もうとしてみたり、水をすくって容器に入れたり出したりを繰り返しています。初めての水鉄砲や水風船遊びの2歳さんたち、目をキラキラさせて水の不思議さ、心地良さを五感で感じています。探究心に燃えて、全力で遊ぶ姿はカッコいいです。遊びは「自分育て」目と手先と全身を集中させて、思考を繰り返しながら発明して遊ぶ。満足して遊んだ日の午睡時はとても静かです。8月熱中症予防をしながら遊びたいと思います。

7月末新型コロナウイルスの感染が止まりません。既に感染のステージが変わり、市中感染、家庭内感染が拡大している状況だと言われています。園では、換気をし、衛生消毒を行っています。保育園の特性として三密の密集、密接は防げず、お子さんにとって感染リスクはあります。安全な場所とは申せません。お子さんの命を守る判断は、ご家庭でお願いいたします。保育園は、こどもの健やかな育ちや就労を支えるための大切なインフラ事業であり、園がクラスターにならない限りは通常保育です。その点をご安心下さい。ご家族でPCR検査を受ける場合は、必ず園へ連絡をお願いいたします。陽性者が出た場合は、北区保育課、北区保健所の指示のもとに対応いたします。ウイズコロナ、ウイルスと共存、共生、いつ誰が罹ってももう不思議ではありません。その都度、大人の私たちが最善の方法を考えながら協力して一緒に乗り越えていきましょう。元気な子どもたちから毎日勇気ももらっています。そして、保護者のご理解が保育者を支えて下さっています。いつも有り難うございます。

さて、今年は戦後75年となります。毎年、8月に子ども達と読む本があります。「8月6日のこと」文：中川ひろたか氏、絵：長谷川義史氏の本です。保育士であり絵本作家の中川氏の実話に基づいて書かれています。広島原爆の絵本です。16歳だったお母さんは兄であり兵隊であった叔父にとときどきおにぎりを差し入れに広島へ行っていたのですが、その日、穏やかだった瀬戸内海が一瞬に原子爆弾投下で地獄となりました。絵本でありながら、原爆の恐ろしさ、戦争の惨状が伝わってきます。何回読んでも息を呑む場面です。黒焦げの死体の山を見ながら兄を探して歩くお母さん、この場面はいつも子ども達が一瞬となる場面です。戦後75年、大きな犠牲の上での今の暮らしがあると思うと、私は、平和の大切さや命の尊さを私たちの未来である子どもたちと話し合うことは大人の責任だと思います。平和とは、抽象的なことではなく自分や家族の生活を考えることです。今、生きることで当たり前だと思うこと、遊ぶことも、家族での夕飯も全て平和とつながって生きているのです。でもこの平和は、私たちが社会や政治に無関心では育たないと痛感します。広島、長崎と日本は唯一の被爆国です。原発問題も含めて考えていきたいです。穏やかな瀬戸内海の絵表紙からも二度と戦争をしてはならないと平和への祈りを感じます。貸し出し絵本コーナーにも追加しました。

さて、ウイズコロナの今、幼児教育は、過去の経験にとらわれず、園行事や規則自体を見直そう、行事は誰のために必要なのかとその根拠を考えることが大事と汐見先生（東京大学名誉教授）は子ども側にたって問い直すことだと仰っています。何事もそもそもと考えるみると慣れている習慣も疑問をもつことが沢山ありそうです。さあ夏祭り、年長組の御神輿も素晴らしいです。密を避けて、乳児さんもみんなで楽しみます。仲間と関わり成長していく姿を保護者に皆さんに見せてあげたいなあ～と思う毎日です。写真は水遊びの様子です。